

2025 (R7) シカ年度*
知床半島エゾシカ管理計画
実行計画 (案)



令和 7 (2025) 年 6 月

* 「シカ年度」の定義については p.1 の②参照

目 次

2025(R7)シカ年度管理計画実行計画概要

1. 知床半島エゾシカ管理計画実行計画について p.1
- 2025(R7)シカ年度管理事業位置図 p.3
- 2025(R7 シカ年度モニタリング調査位置図 p.4
2. 2025(R7 シカ年度実行計画（管理事業）一覧 p.5
3. 2025(R7 シカ年度実行計画（モニタリング調査）一覧 p.6

2025(R7)シカ年度エゾシカ個体数調整・捕獲計画（案）

4. 2025(R7)シカ年度エゾシカ個体数調整・捕獲計画一覧（案） p.7
5. 2025(R7)シカ年度エゾシカ捕獲事業計画（遺産地域）（案） p.9
6. 2025(R7)シカ年度エゾシカ捕獲事業計画（隣接地域）（案） p.13

2025(R7)シカ年度植生モニタリング調査計画（案）

7. 2025(R7 シカ年度植生モニタリング調査計画（環境省分） p.15
8. 2025(R7 シカ年度植生モニタリング調査計画（林野庁分） p.21

1. 知床半島エゾシカ管理計画実行計画について

① 目的

今年度は、「第 4 期 知床半島エゾシカ管理計画」の計画期間【2022（令和 4）年 4 月～2027（令和 9）年 3 月】の 4 年目にあたる。同計画期間についても引き続き、各シカ年度毎に「知床半島エゾシカ管理計画実行計画」を作成し、エゾシカ管理施策を実施するものとする。本実行計画は、2025（令和 7）年 6 月～2026（令和 8）年 5 月を計画期間とする。

また、「知床半島エゾシカ管理計画」は、北海道が定める「北海道エゾシカ管理計画」（第二種特定鳥獣管理計画）の地域計画に位置づけられていることから、本実行計画に基づく各種事業の実施にあたっては、「北海道エゾシカ管理計画（第 6 期）」と十分な連携を図りながら進めるものとする。

② 2025（R7）シカ年度実行計画期間

エゾシカ管理上の年度区切りとしては、出産期の 6 月開始、翌年 5 月終了とする。
年度の表記としては、「R7 シカ年度」とする。

③ 2025（R7）シカ年度実行計画概要

＜管理事業＞（9-14 ページ参照）

「第 4 期知床半島エゾシカ管理計画」の中で定めた 3 つの管理手法（防御的手法、生息環境改変、個体数調整）を、各地区の管理方針に基づいて優先順位の高いものから順に実施することとする。

i) 「防御的手法」

知床岬などに設置されている各種植生保護柵による防御を継続するとともに、幌別－岩尾別地区では植生保護柵や単木保護ネットの補修を実施し、シカ樹皮食い防止対策を引き続き進める。ウトロ市街地や羅臼中心市街地では、市街地を取り囲む侵入防止柵や電気柵の維持管理および被害対策を継続する。

ii) 「生息環境改変」

幌別－岩尾別地区において、100 平方メートル運動の森・トラストによる、開拓跡地の森林復元作業を引き続き進める。公共事業等における法面植栽等については、エゾシカの嗜好性の低い在来種の利用を推進する。

iii) 「個体数調整」

2025（R7）シカ年度については、知床岬地区、ルサー相泊地区、幌別－岩尾別地区において引き続き個体数調整をそれぞれ実施する。なお、捕獲手法については、それぞれの対策地における対策フェーズに応じて、効率的かつ低コストな対策手法を試行するなどの検討を進める。

さらに隣接地域においても囲いわなや銃等による個体数調整を実施する他、狩猟による捕獲を推進する。なお、実施にあたっては、希少野生生物への影響に配慮する。

<モニタリング調査> (15-23 ページ参照)

「知床半島エゾシカ管理計画」の中で定めた 2 つの評価項目（植生、エゾシカ生息密度）を中心に、必要なデータを収集することを目的とする。

i) 「植生」

既存の植生保護柵内外の回復過程調査を規模を縮小して実施するほか、個体数調整実施地区における固定調査区のモニタリング、簡易的手法による指標種の回復量調査、広域的なシカ採食圧評価のための混合ベルト調査等を実施する。

ii) 「エゾシカ生息密度」

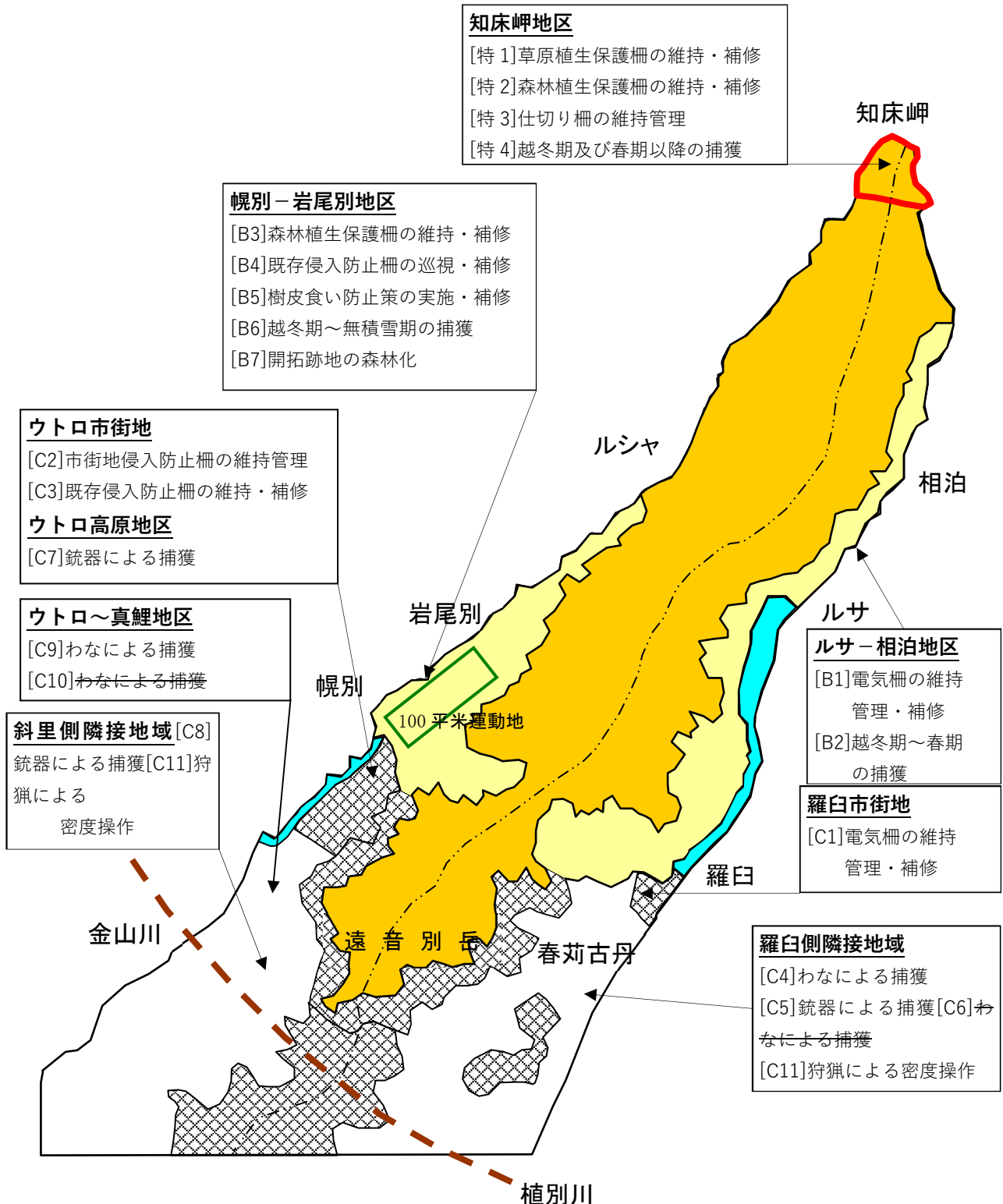
主要越冬地での生息動向を、航空カウント調査を中心に、ロードセンサス（ライトセンサスや日中センサス）などの手法も用いて引き続き把握することに加え、自然死亡状況についても情報収集する。

iii) 「土壌浸食」

広域採食圧調査の実施時に、土壌浸食について、A 0 層と表土の流失の程度を 5 段階で把握する。

2025(R7)シカ年度管理事業位置図

※[]内記号は管理事業No.を示す



- 特定管理地区
- エゾシカ A 地区
- エゾシカ B 地区
- 隣接地域境界線イメージ
- 2023年度シカ捕獲禁止区域
- シカ可猟区域
- 国指定鳥獣保護区（ただし、遺産登録地からはずれた部分：隣接地域に含まれる）

2025(R7)シカ年度モニタリング調査位置図

※[]内記号は管理事業No.を示す



2. 2025(R 7)シカ年度実行計画（管理事業）一覧

地区区分	管理目標	No.	管理手法	実施主体	管理事業	地区・場所	2022 R04	2023 R05	2024 R06	2025 R07	2026 R08
特定管理 地区	エゾシカの採食圧を軽減することにより、風衝地群落・山地性高 茎草本群落・亜高山性高茎草本 群落を含む生物多様性を保全・ 再生するとともに土壌浸食を防 止する。また、風衝地群落で植被 率を回復させる。 （数値目標） 発見密度：10 頭/k㎡以下	特 1	防御的手法	環境省	草原植生保護柵の維持・補修	知床岬	○	○	○	○	○
		特 2		林野庁	森林植生保護柵の維持・補修		○	○	○	○	○
		特 3	個体数調整	環境省	仕切柵の維持管理		○	○	○	○	○
		特 4			捕獲（捕獲手法の検討を含む）		○	○	○	○	○
エゾシカ A地区	生態的過程により変動する動的 な生態系を保全するとともに、 希少植物種、又は遺産地域に特 徴的な在来植物種と植物群落の 消失を回避することにより、本 地区の生物多様性を保全する。	A 1	防御的手法			高山帯	※必要に応じて検討実施				
		A 2				ルシャ	※必要に応じて検討実施				
エゾシカ B地区	エゾシカの採食圧を軽減することにより生物多様性の保全を図 る。特に離農跡地等の人為植生 が越冬期の餌資源をエゾシカに 供給している幌別－岩尾別地区 では、離農跡地での森林復元を 促進する。また、地域との軋轢の 解消や軽減を図る。 （数値目標） 発見密度：5 頭/k㎡以下	B 1	防御的手法	羅臼町 知床財団	電気柵の維持管理・補修	ルサー相泊	○	○	○	○	○
		B 2	個体数調整	環境省	捕獲（捕獲手法の検討を含む）		○	○	○	○	○
		B 3	防御的手法	林野庁	森林植生保護柵の維持・補修	幌別－岩尾別	○	○	○	○	○
		B 4		斜里町	既存侵入防止柵の巡視・補修	(100 平米運動地)	○	○	○	○	○
		B 5		斜里町	樹皮食い防止策の実施・補修	(100 平米運動地)	○	○	○	○	○
		B 6	個体数調整	環境省	捕獲（捕獲手法の検討を含む）		○	○	○	○	○
		B 7	生息環境の 改変	斜里町	開拓跡地の森林化	(100 平米運動地)	○	○	○	○	○
		B 8		環境省	道路法面牧草面積の拡大抑制	国立公園内	○	○	○	○	○
隣接地域	エゾシカの採食圧を軽減することにより、生物多様性を保全す るとともに、地域住民とエゾシ カの軋轢緩和を図る。 （数値目標） 発見密度：5 頭/k㎡以下	C 1	防御的手法	羅臼町 知床財団	電気柵の維持管理・補修	羅臼市街地	○	○	○	○	○
		C 2		斜里町	市街地侵入防止柵の維持管理	ウトロ市街地	○	○	○	○	○
		C 3		林野庁	既存侵入防止柵の維持・補修	宇登呂イチャイ遺伝資 源希少個体群保護林	○	○	○	○	○
		C 4	個体数調整	林野庁	捕獲（わな）	春茹古丹	○	○	○	○	○
		C 5		羅臼町	捕獲（銃器）	羅臼町内	○	○	○	○	○
		C 6		羅臼町	捕獲（わな）		⊖	⊖	⊖	○	○
		C 7		斜里町	捕獲（銃器）	ウトロ高原	○	○	○	○	○
		C 8		斜里町	捕獲（銃器）	斜里町内	○	○	○	○	○
		C 9		林野庁	捕獲（わな）	ウトロ～真鯉	○	○	○	○	○
		C 10		斜里町	捕獲（わな）		⊖	⊖	⊖	○	○
		C 11		北海道	狩猟による密度操作	全域	○	○	○	○	○

※水色は予定どおり実施、オレンジ色は数量・実施年に変更あり。

3. 2025(R7)シカ年度実行計画（モニタリング調査）一覧

No.	評価項目	実施主体	モニタリング項目	調査地	植生タイプ 又は調査方法	第 4 期計画期間					基本的な考え方など
						2022 R04	2023 R05	2024 R06	2025 R07	2026 R08	
V01	植生	詳細調査（調整地区＋ルシヤ）	環境省 簡易的な手法による指標種の回復量調査	知床岬	草原・森林	○	○	○	○	○	毎年実施 ルシヤは他調査(V03 等)と合わせて実施
				ルサ-相泊	草原	○	○	○	○	○	
				幌別-岩尾別	草原・森林	○	○	○	○	○	
				ルシヤ	草原・森林		○		○		
V02			林野庁 植生影響調査 （森林植生、草原植生）	知床岬	森林		○			△林床	林床・稚樹・下枝は 5 年に 2 回程度、毎木は 1 回実施。変化の少ないルシヤ地区は 5 年間隔とする
				ルサ-相泊		△林床		○			
				幌別-岩尾別			○			△林床	
				ルシヤ					○		
V03			環境省	知床岬	草原	○		○		○	知床岬は隔年、幌別は 5 年間隔程度
				幌別					○		
				ルシヤ			○		○		
V04			林野庁 植生保護柵を用いた回復過程調査	知床岬	森林		○				※エゾシカの影響からの回復が進んだため、長期的な変化を追うために 5 年に 1 回程度実施
				幌別			○				
V05				幌別-岩尾別		○	○	○	○	○	100 平米運動地ほか
V06				知床岬	草原	○		○		○	隔年程度。他調査（V03 等）と合わせて実施
V07			環境省 エゾシカ採食量と回復量の短期的な調査	知床岬	草原						各調査区ともに終了
				ルサ-相泊							
				幌別-岩尾別							
V08	広域調査		林野庁 植生影響調査（森林植生）	全域の越冬地 (標高 300m 未満)、 標高 300～600m	森林	25 区	16 区	11 区	10 区	調査計画を全体に調整して 毎年 10～20 区を調査	基本的に 5 年間隔で実施 ※一部の変化が少ない調査区はモニタリング優先度を下げて予備調査区とする"
V09			環境省 植生影響調査（海岸植生）	斜里側 羅臼側	海岸				○		
V10			環境省 植生影響調査（高山植生）	全域	高山	遠音別岳	知床連山	羅臼湖	知床岳		
V11			環境省	硫黄山周辺		○	○	○	○	○	
D01	エゾシカ 個体数・ 個体数指数	詳細調査	環境省	知床岬	航空カウント	○	○	○	○	○	
			斜里町 羅臼町 知床財団	エゾシカ主要越冬地における カウント調査	幌別-岩尾別 ルサ-相泊 真鯉	ライトセンサス 日中カウント	○	○	○	○	
D02		広域的調査	知床財団	エゾシカ間引き個体、自然死亡個体などの 体重・妊娠率など個体群の質の把握に関する 調査及びデータの蓄積	知床岬 幌別-岩尾別 隣接地域		○	○	○	○	交通事故等死亡個体の回収・記録（ヒグマ対策の一環として実施）
D03			環境省	エゾシカ越冬群の広域航空カウント	全域	航空カウント	遺産地域内	遺産地域内	遺産地域内	○	遺産地域内
D04			環境省	越冬地エゾシカ実数調査	－						本調査は終了
D05	生態系への影響	詳細調査	環境省	エゾシカ季節移動調査	全域						本調査は終了
E01			環境省	土壌浸食状況調査	知床岬	(草原)					本調査は終了
E02			環境省 林野庁	土壌浸食状況広域調査	全域	森林	広域植生調査(V08)に併せて実施				
B01		詳細調査	環境省	陸上無脊椎動物（主に昆虫）の 生息状況調査	知床岬	草原・森林			訪花		5 年間隔
					ルサ-相泊				訪花 地表性		
					幌別-岩尾別				訪花 地表性		
					半島基部				訪花 地表性		
B02			環境省	陸上鳥類生息状況調査	知床岬	草原・森林			○		5 年間隔
					幌別-岩尾別				○		

※水色は予定どおり実施、オレンジ色は数量・実施年に変更あり。

4. 2025(R7)シカ年度 知床半島エゾシカ捕獲事業計画一覧

地区別取組スケジュール

[illegible]

2025 (R7) シカ年度 知床半島エゾシカ捕獲事業計画一覧

捕獲取組一覧

事業 主体	地 区 [事業No.]	実施時期	捕獲手法	実施場所	実施回数 わな基数	捕獲目標 頭数
【遺産地域】						
環境省	知床岬 [特 4] (位置図 1)	2026 年 4 月～5 月 ※1	次シカ年度計画により 実施内容を選択判断	知床岬先端部	延べ●日 以上 ※1	メス成獣 101 頭 ※1
	ルサ-相泊 [B 2] (位置図 2)	12 月～3 月	くくりわな猟 ほか	アイドマリ川、ルサ川流域、昆布浜周辺ほか (図中①)	15 回以上 30 基以上	38 頭
	幌別-岩尾別 [B 6] (位置図 3)	12 月～3 月	大型仕切柵による 囲いわな式捕獲	岩尾別台地上 (図中①)	3 回以上	28 頭
		12 月～3 月 ※2	待ち伏せ式狙撃 忍び猟 ほか	岩尾別川河口付近ほか (図中②)	8 回以上	
		12 月～3 月	くくりわな猟 ほか	幌別川から岩尾別川間	10 回以上 20 基以上	
【隣接地域】						
事業 主体	地 区 [事業No.]	実施時期	捕獲手法	実施場所	捕獲目標 頭数	
林野庁	春荻古丹 [C 4]	12 月中旬～1 月下旬 誘引は 12 月上旬開 始	くくりわな猟	春荻古丹川周辺	20 頭	20 頭
	ウトロ～真鯉 [C 9]	1 月上旬～2 月上旬	くくりわな猟	遠音別地区 (オシンコシン周辺)	60 頭	60 頭

※1 捕獲目標頭数、実施時期並びに実施回数については、本 WG 委員の意見のほか、航空カウント調査結果等も踏まえて適宜見直し。

※2 12 月は主に給餌による誘引、1 月から捕獲を開始予定。

5. 2025 (R7) シカ年度 知床半島エゾシカ捕獲事業計画 (案) (遺産地域)

1. 目的

エゾシカの個体数調整を実施することにより、知床国立公園及び知床世界自然遺産地域(以下、遺産地域という。)におけるエゾシカの過増加による生態系への深刻な悪影響の緩和を図る。

2. 実施地区及び実施期間

計画期間：令和 7 (2025) 年 6 月～令和 8 (2026) 年 5 月 (※6～8 月)

実施地区ごとの期間は下表のとおり。

実施地区	実施期間
知床岬地区	令和 8 年 4 月～5 月 (※6～10 月)
ルサ-相泊地区 (羅臼町)	令和 7 年 12 月～令和 8 年 3 月
幌別-岩尾別地区 (斜里町)	令和 7 年 12 月～令和 8 年 3 月

※6 月以降に捕獲する個体については、翌シカ年度の実施状況として整理を行う。

※シカ年度は 6 月から翌年 5 月までの期間をいう。以下、文中「年度」の表記についてはシカ年度を指す。

3. 捕獲目標及びエゾシカ生息確認状況

実施地区ごとの捕獲目標頭数は下表のとおり。

実施地区	捕獲目標頭数※1
知床岬地区	メス成獣 101 頭以上 ※1
ルサ-相泊地区	38 頭以上 ※2 (内メス成獣 11 頭以上)
幌別-岩尾別地区	28 頭以上 ※2 (内メス成獣 8 頭以上)

※1 知床岬地区は、直近の航空カウント調査結果における発見頭数のうち、メス成獣の半数以上を捕獲目標頭数として設定。

※2 知床岬地区以外の 2 地区は、直近の航空カウント調査結果における発見頭数 (雌雄合計) から一般的な自然増加率 (年当たり 21%) 分を算出し、雌雄合計として捕獲目標頭数を設定。この内メス成獣については、過去の捕獲実績より上記目標頭数の約 3 割程度を目標頭数として設定。

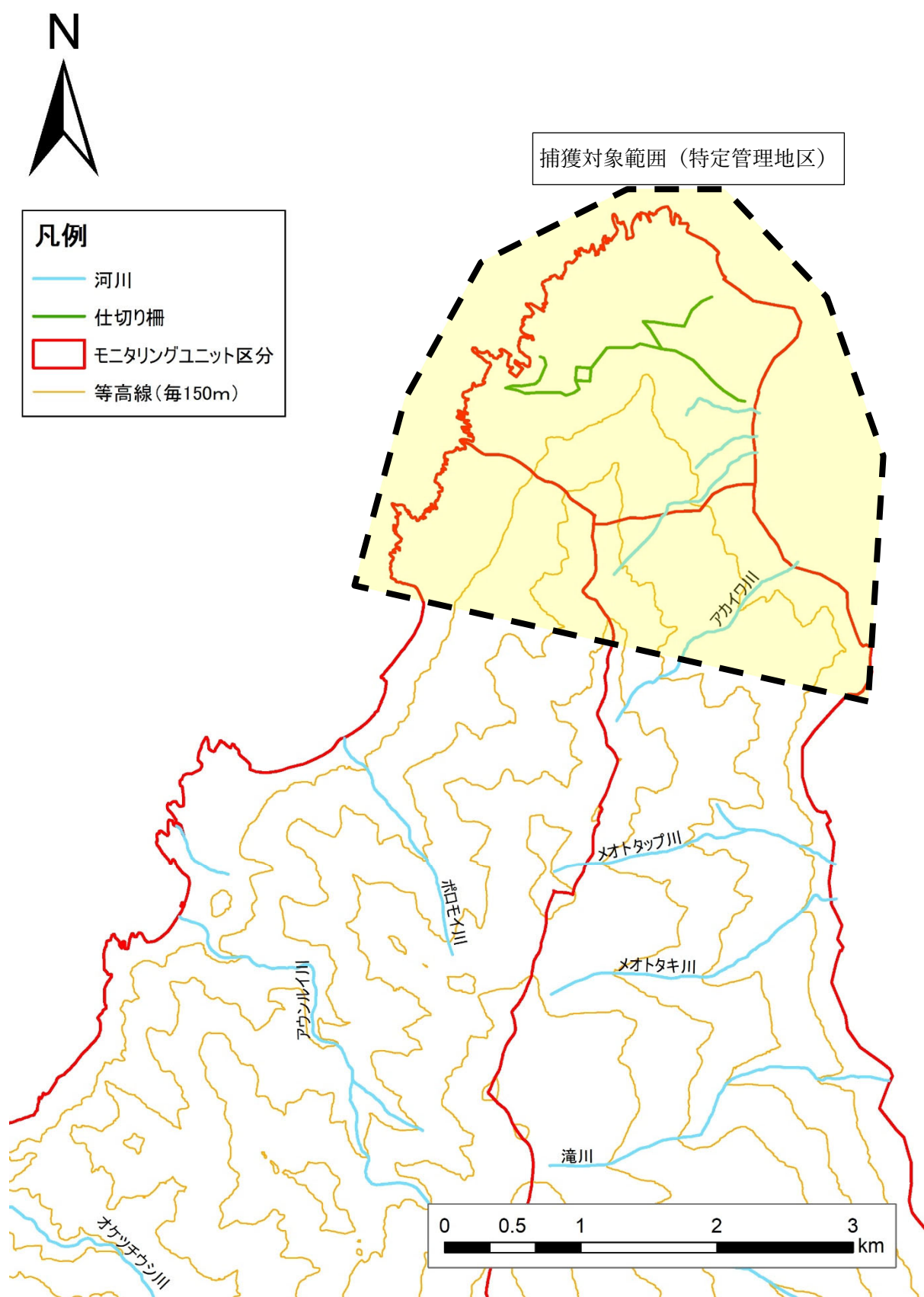
なお、実施地区ごとの目標密度等の状況は下表のとおり。

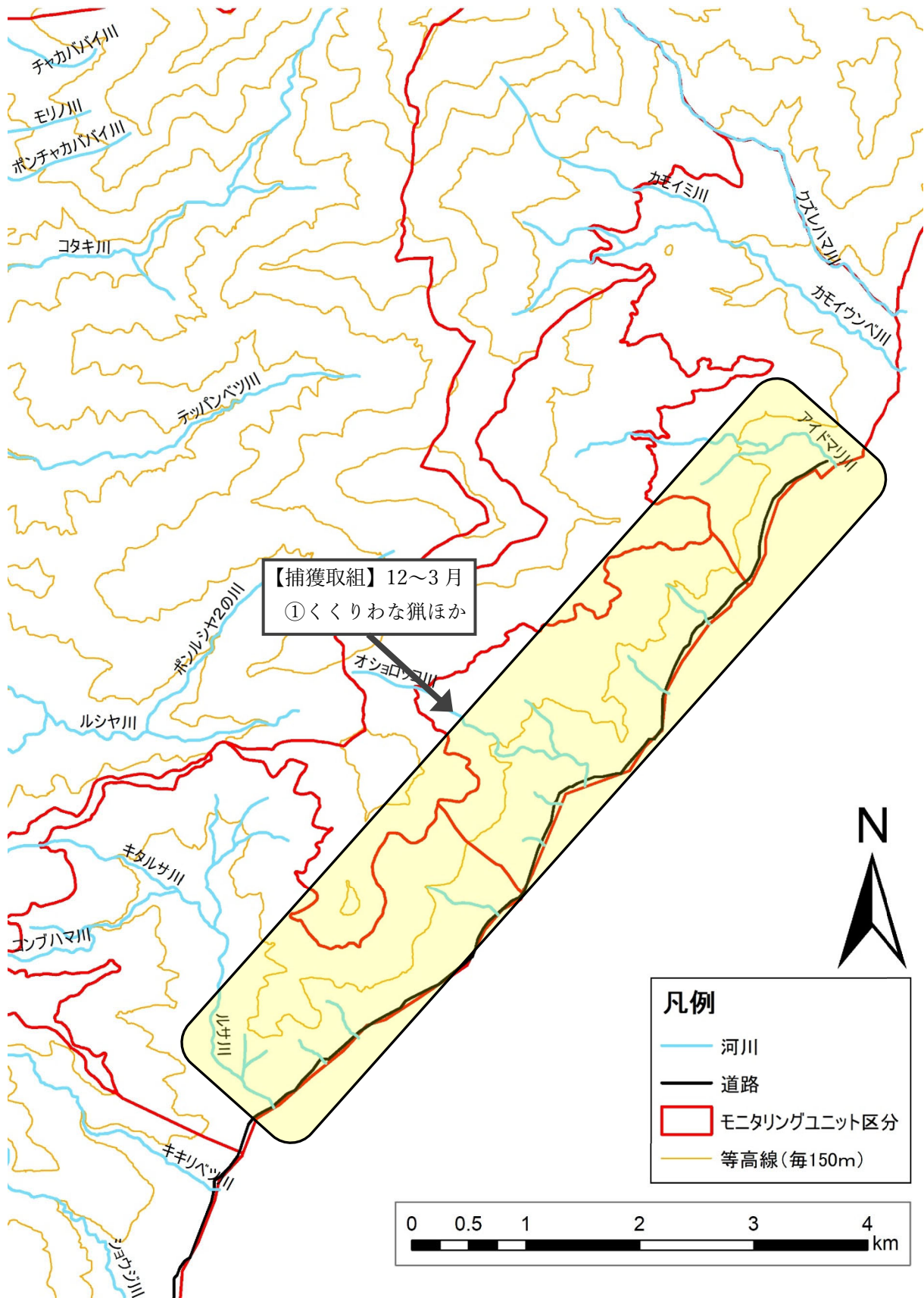
実施地区	第 4 期 目標密度	発見頭数※1	発見密度※1	
		2024 年度	2024 年度	第 3 期最終年 (2021 年度)
知床岬地区	10 頭/km ²	426 頭※2 内メス成獣 203 頭	145.51 頭/km ²	78.64 頭/km ²
ルサ-相泊地区	5 頭/km ²	183 頭	7.41 頭/km ²	3.97 頭/km ²
幌別-岩尾別地区	5 頭/km ²	134 頭	4.61 頭/km ²	10.28 頭/km ²

※1 発見頭数及び密度については、過年度のエゾシカ航空カウント結果を基に算出・掲載。

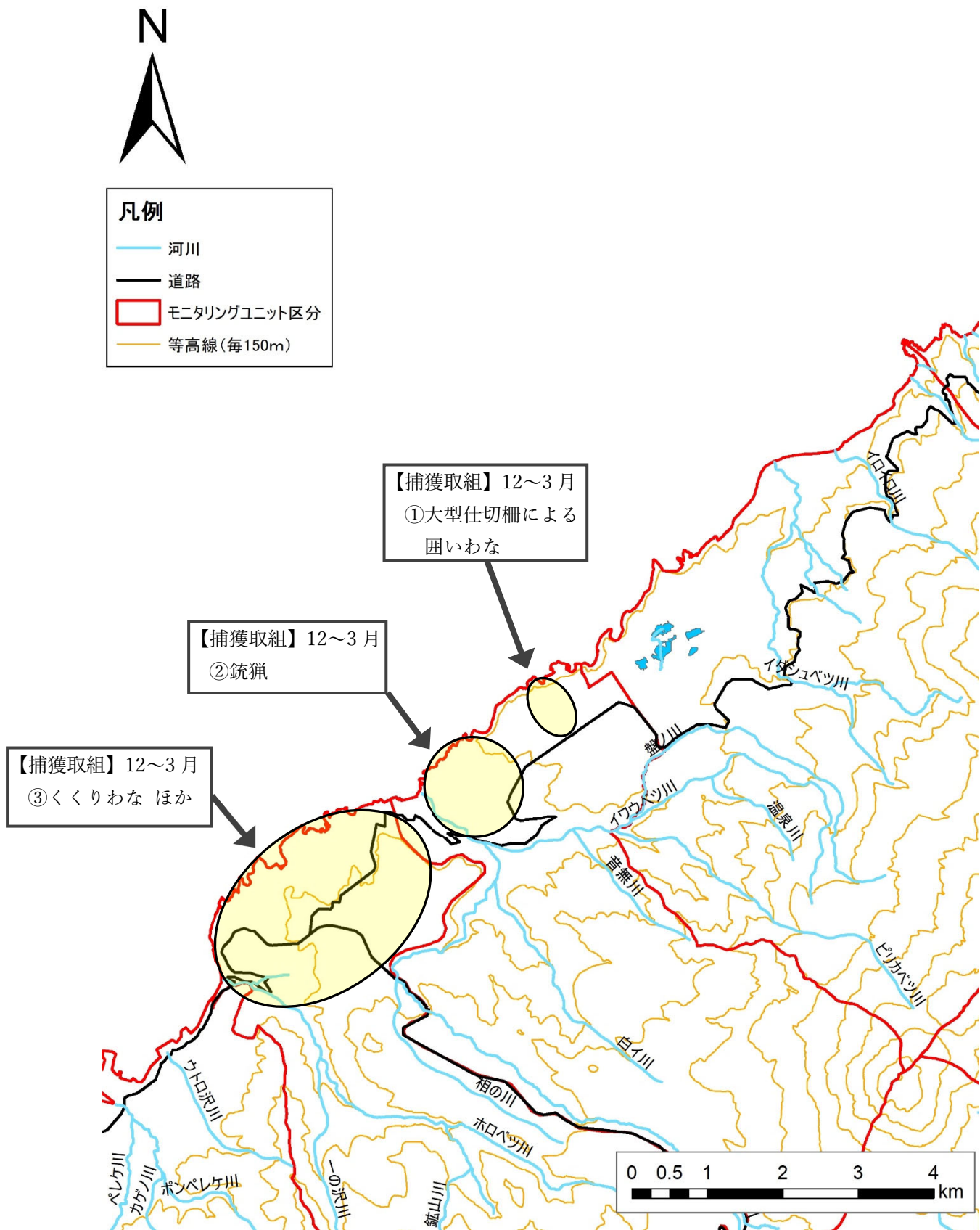
※2 知床岬地区の発見頭数は別途実施した詳細 (旋回撮影) 調査結果を掲載。

5. 捕獲等取組予定位置図





位置図(2) ルサ-相泊地区



位置図(3) 幌別-岩尾別地

(案)

6. 2025 (R7) シカ年度 エゾシカ捕獲事業計画 (隣接地域)

1) 目的

エゾシカの季節的な移動や分散を考慮すると、遺産地域に影響を与えうるエゾシカ個体群の範囲は知床半島基部にまで及ぶ。2025 (R7) シカ年度エゾシカ捕獲事業では、第4期知床半島エゾシカ管理計画に基づき、エゾシカの採食圧を軽減することにより、生物多様性を保全するとともに、地域住民とエゾシカの軋轢緩和を図る。

2) 経緯と方針

<経緯>

- ・北海道森林管理局では、2010 (H22) 年度から春荊古丹地区で捕獲事業を開始。2013 (H25) 年度から遺産地域に隣接する宇登呂地区での捕獲事業を開始。2014 (H26) 年度から遠音別地区、真鯉地区において捕獲事業を開始。
- ・わなによる捕獲は、囲いわな、箱わなに加え、2018 (H30) 年度からくくりわなによる捕獲を実施。
- ・囲いわなでの捕獲数が年々減少した理由として、警戒心の増加、局所的な生息数の減少が原因として考えられる。
- ・地形条件等により囲いわな設置が難しい箇所においては、銃を用いた捕獲を H26 年度から実施。なお、捕獲可能な場所が限られることもあり、捕獲頭数は年々減少したため、R2 年度以降は銃猟を休止するとともに、くくりわな主体に捕獲を実施。

<方針>

- ・くくりわなにおいて安定して頭数が捕獲されていることから、2025 (R7) シカ年度の捕獲方法はくくりわなとする。
- ・一般狩猟が可能な区域は基本的に除外し、鳥獣保護区等で狩猟による捕獲が見込めない区域を事業対象とする。具体的には、オシンコシン地区及び春荊古丹地区において、くくりわなによる捕獲を行う。
- ・捕獲目標は過去の捕獲頭数及び航空カウントによる密度、地域からの意見等を考慮し設定。
- ・事業にあたっては希少野生生物に配慮するため、有識者より助言を受けて実施する。

3) 捕獲事業内容案

<全体>目標 80 頭 (うち斜里町側 60 頭、羅臼町側 20 頭)

- ・くくりわな (1月上旬～2月上旬に捕獲を実施)

3-1) 遠音別地区 捕獲目標頭数：60 頭

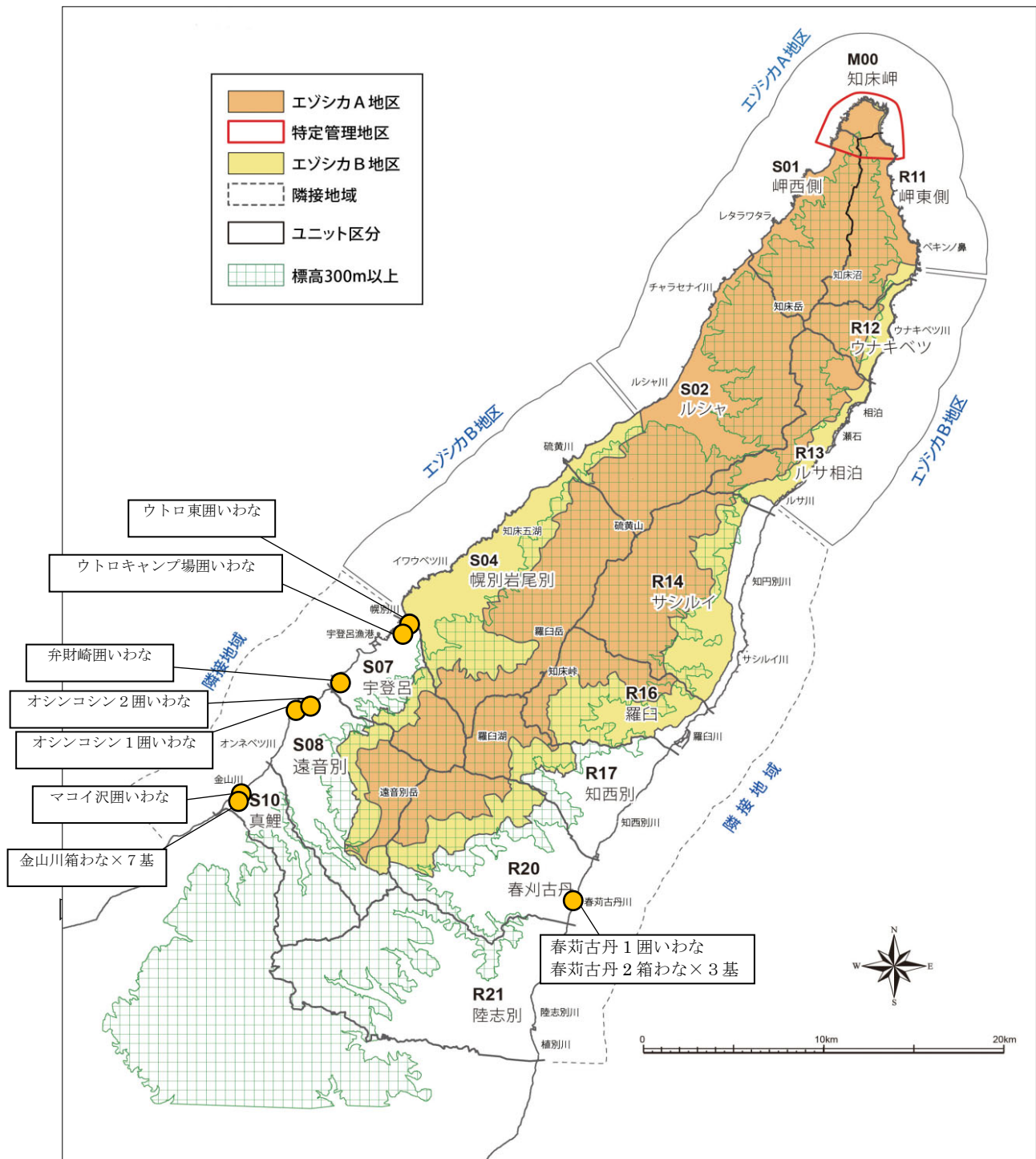
- ・くくりわな (オシンコシン周辺)

3-2) 春茹古丹地区 捕獲目標頭数：20 頭

(12月上旬給餌・誘引開始、12月中旬～1月下旬捕獲実施)

- ・くくりわな (春茹古丹林道周辺)

隣接地域既設わな位置図



7. 2025(R07)シカ年度 植生モニタリング実施計画(環境省分)

これまでの実施成果とモニタリング計画を基にした 2025 年度の計画案を下表にまとめた。

表 第 4 期知床半島エゾシカ管理計画のモニタリング項目と実施内容・実施計画

評価	項目	モニタリング項目	実施主体	No.	調査地区	植生タイプ	第 4 期計画期間					基本的な考え方等
							2022 (R04)	2023 (R05)	2024 (R06)	2025 (R07)	2026 (R08)	
植生	詳細調査	簡易的な手法による指標種の回復量調査	環境省	V01	知床岬	森林・草原	○	○	○	●	○	毎年実施
					幌別-岩尾別	森林・草原	○	○	○	●	○	
					ルサ-相泊	草原	○	○	○	●	○	
					ルシヤ	森林・草原		○		●		
		植生影響調査	林野庁	V02	知床岬	森林		○			△	毎木は 5 年間隔、 林床・稚樹・下枝は 隔年で実施
					幌別-岩尾別			○			△	
					ルサ-相泊		△		○			
					ルシヤ					○		
		植生保護柵を用いた回復過程調査	環境省	V03	知床岬	草原	○		○		○	知床岬は隔年、幌別は 5 年間隔で実施
					幌別					●		
					ルシヤ			○		●		
		エゾシカ採食量と回復量の短期的な調査	林野庁	V04	知床岬	森林		○				5 年間隔で実施
					幌別		(○)	○				
			斜里町	V05	幌別-岩尾別	森林	○	○	○	○	○	100m ² 運動地ほか
	広域調査	植生影響調査(森林植生)	環境省	V06	知床岬	草原	○		○		○	隔年程度で実施
					幌別-岩尾別							
		植生影響調査(海岸植生)	環境省	V07	知床岬	草原						終了
					幌別-岩尾別							
		植生影響調査(高山植生)	環境省	V08	標高 300 未満(越冬地)、 標高 300 ~ 600m	森林	○ 25 区					5 年間隔で実施 調査計画を全体に調整して毎年 10 ~ 20 区を調査
土壌侵食	詳細	土壌侵食状況調査	環境省	E01	知床岬	草原						終了
	広域	土壌侵食状況広域調査	環境省 林野庁	E02	全域	森林						広域植生調査 V08 に合わせて実施
生態系への影響	詳細調査	陸上無脊椎動物(主に昆虫類)の生息状況調査	環境省	B01	知床岬	森林・草原			○			5 年間隔で実施
					幌別-岩尾別				○			
					ルサ-相泊				○			
					半島基部				○			
		陸上鳥類生息状況調査	環境省	B02	知床岬				○			5 年間隔で実施
					幌別-岩尾別				○			

※V01 簡易的な手法による指標種の回復量調査のうち、ルシヤ地区はモニタリング計画にはないが、ルシヤ地区での他調査と並行して実施する。

※V04 植生保護柵を用いた回復過程調査のうち、岩尾別地区の森林固定区はモニタリング計画から外されているが、現況確認のため 2022 年度に調査を実施した。

1. 詳細調査：エゾシカ個体数調整地区における指標開発・事業評価

1.1 簡易的な手法による指標種の回復量調査 (V01) ※環境省事業

2025年度は、知床岬地区、幌別地区、ルサ地区の3地区において、夏季(8月頃)にこれまでと同じ手法で植生調査を実施し、経年変化の傾向を把握する。知床岬地区については、初夏(6月下旬)にも開花期を持つ種を対象とした調査を実施する。

調査は、「簡易的な手法による指標種の回復量および植生影響調査 実施要領」に準拠する。

■知床岬地区

【長距離ライン概要】

植生	調査区名	距離m	場所の備考
森林	F_ML1	550	大型囲い柵沿い、森林固定区まで
森林	F_ML2	1,500	大型囲い柵沿い、羅臼側
草原	G_ML1	1,330	文吉湾～アブラコ湾
草原	G_ML2～4	1,160	アブラコ湾～灯台～羅臼金属柵
草原	G_ML5	214	エオルシ柵内外

【詳細ライン概要】

植生	調査区名	距離m	タイプ
森林	F_M1	100	対照
森林	F_M1c	100	囲い
草原	G_M1	100	対照
草原	G_M2	100	対照
草原	G_M3	50	対照



■幌別地区

【長距離ライン概要】

植生	調査区名	距離m	場所の備考
森林	F_HL1	500	自然センター向かい
森林	F_HL2	500	森林固定区向かい
森林	F_HL3	500	岩尾別温泉途中
草原	G_HL1	920	フレベ遊歩道一周

【詳細ライン概要】

植生	調査区名	距離m	タイプ
森林	F_H1	100	対照
森林	F_H1c	100	囲い
森林	F_H2	100	対照
草原	G_H1	50	対照



■ルサ地区

【長距離ライン概要】

植生	調査区名	距離m	場所の備考
草原	G_RL1	370	囲いむなに向かう作業道沿いの山側



■ルシャ地区

【長距離ライン概要】

植生	調査区名	距離m	場所の備考
森林	F_SL1	600	カーブから301mピークまでの林道両側
草原	G_SL1	880	ボンベツ川-ルシャ川間の林道両側
草原	G_SL2	380	ルシャ川-テツパンベツ川間の林道両側

【詳細ライン概要】

植生	調査区名	距離m	タイプ
草原	G_S1	50	対照
草原	G_S2	50	対照

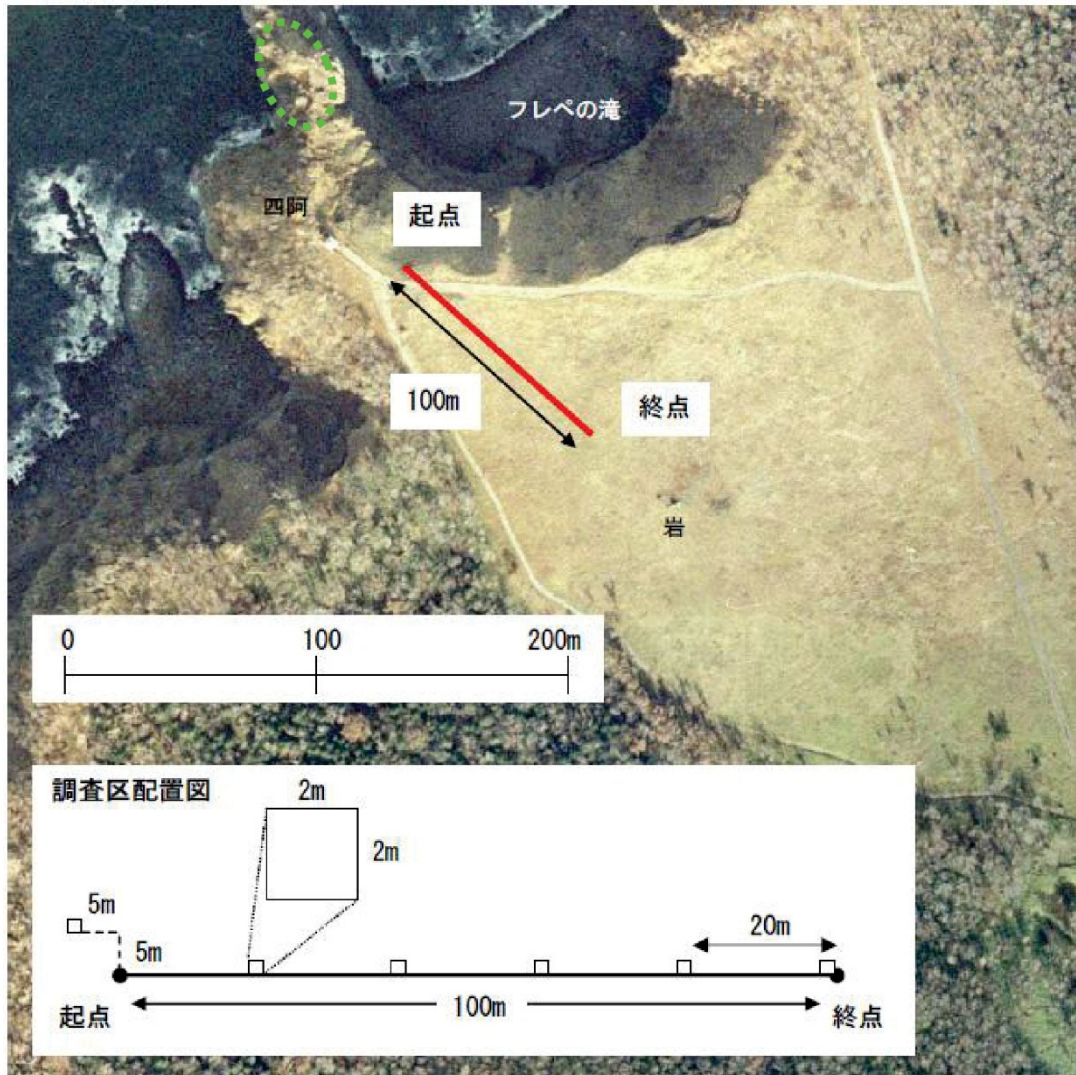


1.2 植生影響調査(草原植生) (V03) ※環境省事業

草原植生については、知床岬地区、幌別地区、ルシヤ地区のそれぞれに固定植生調査区を設置して、その推移をモニタリングしている。

2025年度の調査対象である幌別地区では、下図に示すとおり、フレペの滝近傍に設定された調査ライン上の6つの方形区について調査を実施し、経年変化の傾向を把握する。

調査は、「草原植生モニタリング調査(幌別地区)実施要領」に準拠する。



2. 広域調査：半島全体における植生の状況とエゾシカ影響の把握

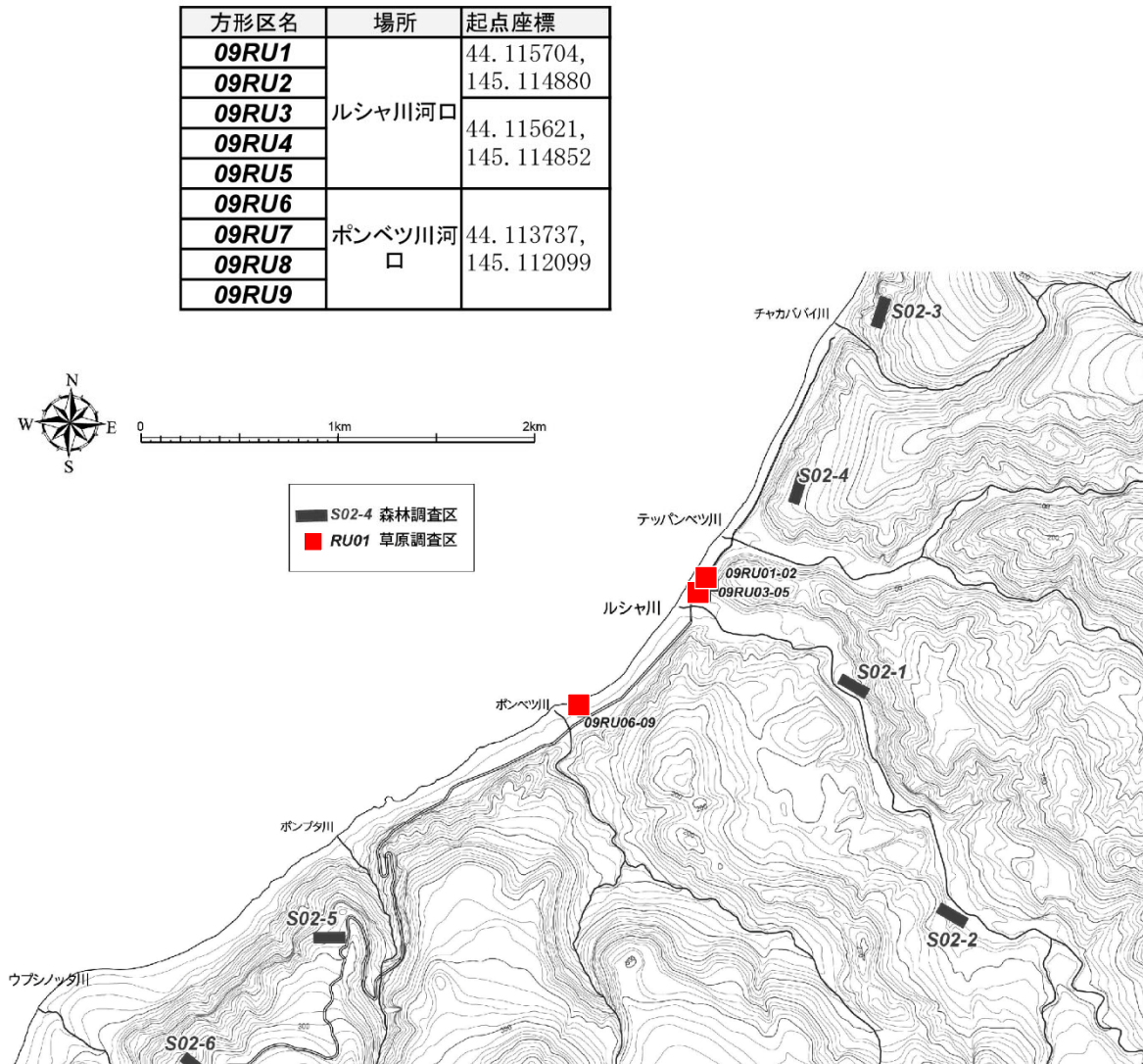
2.1 植生影響調査(海岸植生) (V09) ※環境省事業

知床世界自然遺産地域の海岸植生におけるエゾシカの影響を把握するため、斜里町側(ルシヤ地区)を対象として植生調査を実施している。

調査区はルシヤ川河口域に 5 地点(09RU1～09RU5)、ポンベツ川河口域に 4 地点(09RU6～09RU9)設定されている。

調査は、「海岸植生調査(ルシヤ地区) 実施要領」に準拠する。

※V03 ルシヤ地区を含む



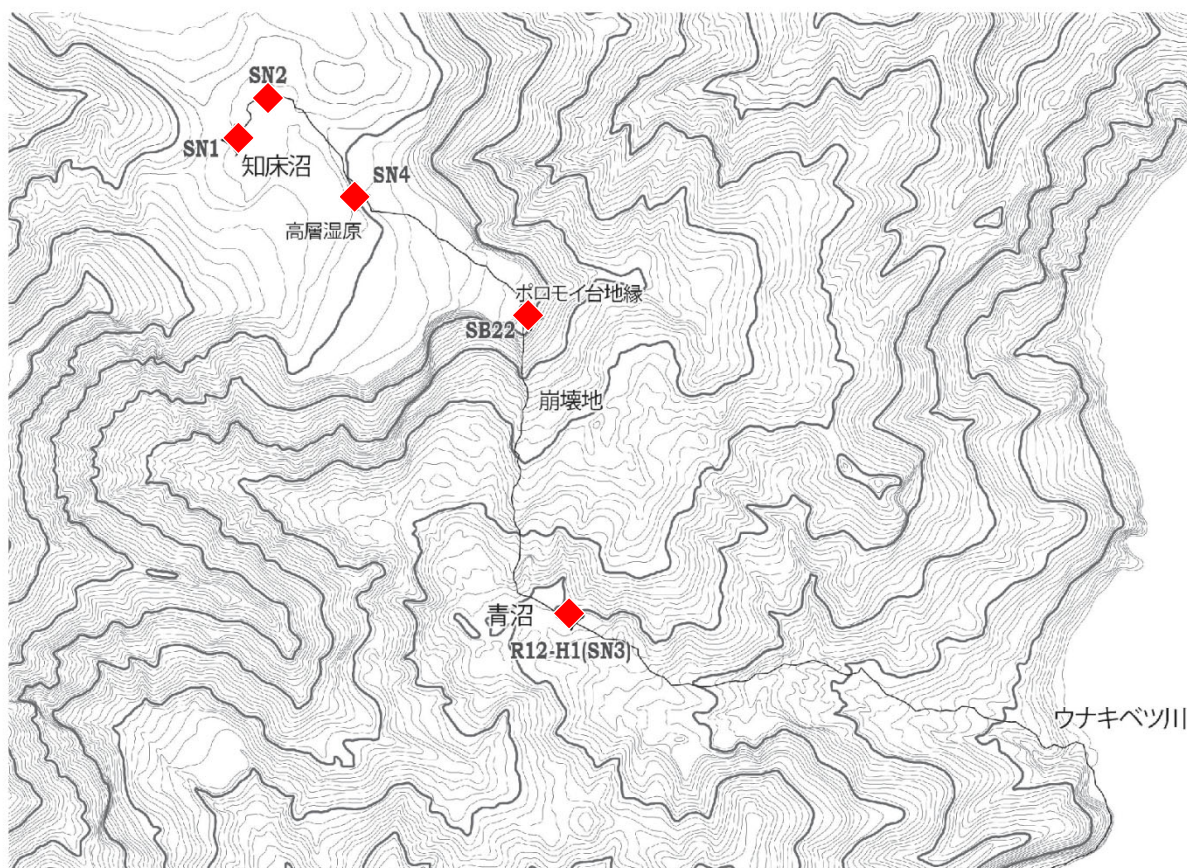
2.2 植生影響調査(高山植生) (V10) ※環境省事業

知床半島の植物相を特徴づけるものの一つである高山植生を大きく 4 つの地区に分け、各地区 5 年間隔でモニタリングしている。2025 年度は知床岳・知床沼地区における調査を実施し、経年変化の傾向を把握する。

調査区は高山植生に 3 地点(SN1、SN2、SN4)、亜高山植生に 1 地点(SB-22)、森林植生に 1 地点(R12-H1)設定されている。

調査は、「知床岳・知床沼地区における植生影響調査(高山植生) 実施要領」に準拠する。

	調査区	標高	規模	備考
高山	SN1	920m	24m×1m	佐藤ら(1980)のサイト
	SN2	920m	24m×1m	知床沼キャンプサイト
	SN4	900m	17.8m×1m	知床沼手前の湿原
亜高山	SB-22	800m	10m×5m	佐藤ら(1980)のサイト
森林	R12-H1(SN3)	400m	100m×4m	大崩れ付近



8. 2025 (R07) シカ年度 植生モニタリング実施計画 (林野庁分)

これまでの実施成果とモニタリング計画をもとにした 2025 年度の計画のうち林野庁実施分について示した。第 4 期エゾシカ管理計画におけるモニタリング調査の構成を踏まえ、表-1 に調査のスケジュール一覧を示した。

**表-1. 第 4 期知床半島エゾシカ管理計画のモニタリング項目と実施内容・実施計画
(植生関連)**

No.	評価項目	実施主体	モニタリング項目	調査地	植生タイプ	第 4 期計画期間					基本的な考え方など
						2022 R04	2023 R05	2024 R06	2025 R07	2026 R08	
V01	植生	環境省	簡易的な手法による指標種の回復量調査	知床岬	草原/	○	○	○	○	○	毎年実施 ルシヤは他調査(V03 等)と合わせて実施
				ルサ-相泊	草原	○	○	○	○	○	
				幌別-岩尾別	草原/	○	○	○	○	○	
				ルシヤ	草原/		○		○		
V02		林野庁	植生影響調査 (森林植生、草原植生)	知床岬	森林		○			△	林床・稚樹・下枝は 5 年に 2 回程度(△)、毎木は 1 回実施。変化の少ないルシヤ地区は 5 年間隔とする
				ルサ-相泊		△		○			
				幌別-岩尾別			○			△	
				ルシヤ					○		
V03		環境省		知床岬	草原	○		○		○	知床岬は隔年、幌別は 5 年間隔程度
				幌別					○		
				ルシヤ			○		○		
V04		林野庁	植生保護柵を用いた回復過程調査	知床岬	森林		○				※エゾシカの影響からの回復が進んだため、長期的な変化を追うために 5 年に 1 回程度実施
				幌別			○				
				幌別-岩尾別		○	○	○	○	○	
V05		斜里町		知床岬	草原	○		○		○	100 平米運動地ほか
V06		環境省	エゾシカ採食量と回復量の短期的な調査	知床岬	草原						隔年程度。他調査 (V03 等) と合わせて実施
				ルサ-相泊							
				幌別-岩尾別							
V07		環境省	エゾシカ採食量と回復量の短期的な調査	知床岬	草原						各調査区ともに終了
				ルサ-相泊							
				幌別-岩尾別							
V08	広域調査	林野庁	植生影響調査 (森林植生)	全域の越冬地 (標高 300m 未満)、標高 300 ~ 600m	森林	調査計画を全体に調整して毎年 10~20 区を調査					基本的に 5 年間隔で実施 ※一部の变化が少ない調査区はモニタリング優先度を下げて予備調査区とする
						25 区	16 区	11 区	10 区		

※各調査区では【E02 土壌浸食状況広域調査】についても合わせて実施する。

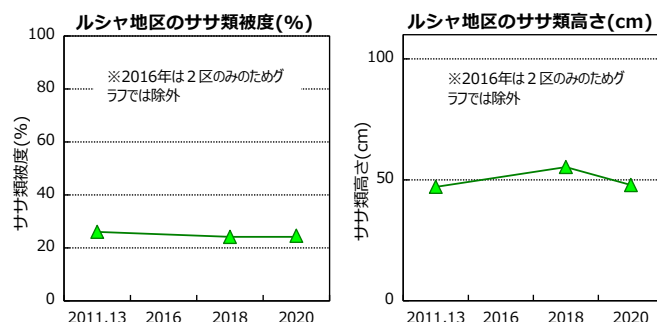
1. 詳細調査：個体数調整地区における指標開発・事業評価

個体数調整地区 3 地区に準ずる地区として、ルシヤ地区（個体数調整未実施）において 2020 年まで 2 年に 1 回モニタリング調査を実施していたが、その後は計画の変更により 5 年に 1 回の実施としている。

1-1. 植生影響調査（森林植生）（V02） 林野庁事業

森林調査は 2008 年に 4 区、2011 年に 2 区を設定し、計 6 区でモニタリングを実施し、今回が 5 回目となる。

本地区では前回まで植生の変化がほとんど見られていないが、今回はその傾向を検証する。



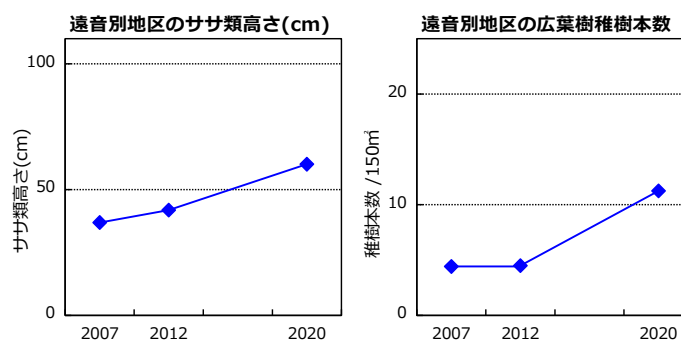
1-2. 植生保護柵を用いた回復過程調査（森林植生）（V04） 林野庁事業

保護柵内外でのモニタリングは 5 年間隔での実施に変更しており、2025 年度は実施しない。

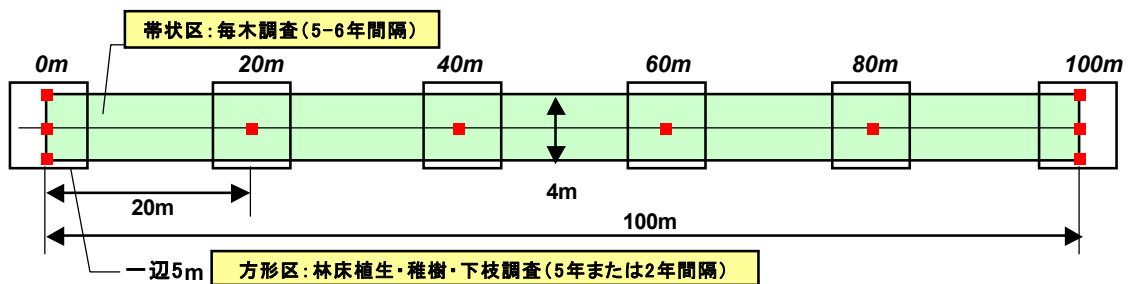
2. 広域調査：半島全体における植生の状況とエゾシカの影響の把握

2-1. 植生影響調査（森林植生）（V08） 林野庁事業（一部環境省）

知床半島全域をユニット区分して、森林植生に全 70 調査区を設定している。5 年間隔のモニタリングを基本としているが、優先度が低いユニットについては見直しを進めている。100m×4m の固定帯状区において、立木・稚樹・下枝・林床植生について生育種とシカの食痕を調査している。



今年度は、遠音別地区の 4 区において実施する。2007 年に調査区を設定した時点で強い採食圧を受けており、広葉樹稚樹もササ類をはじめとする林床植生も低密度になっていたが、前回 2020 年の調査では、稚樹密度やササ類の高さに増加傾向が見られていたため、今回検証する。



広域森林調査の基本構成(林床植生・稚樹・下枝については6方形区内で実施)